

■ 新入生に安全なブロック、タックルを指導。元日本一QBもパスを伝授

アメリカンフットボールによる外傷性脳障害などの重大事故を防ぐための「ヘッズアップ・フットボール」を紹介する「ヘッズアップ・クリニック」と、フットボールの基礎技術を教える「フレッシュマン・クリニック」が7月2日、江別市の札幌学院大で開かれ、8大学の1年生を中心に52人が講義と実技で学んだ。



北海道学生アメリカンフットボール連盟が、日本アメリカンフットボール協会の協力で開いた。午前中の講義では日本協会ヘッズアップ・フットボール指導員の飾磨宗和氏（立命館大、Xリーグ・松下電工インパルスOB）が、米国で2012年に始まったヘッズアップ・フットボールの取り組みを紹介。①首のけがを防ぐためにコンタクトの時にヘッドダウンしない②外傷性脳障害を防ぐために頭部のコンタクトの頻度を下げるとポイントを挙げ、ヘッズアップを導入した米国のリーグで、けがが76%減った例も紹介した。

屋外グラウンドに会場を移した午後の実技では、ヘッズアップ・ブロックとショルダー・タックリングを早速体験した。飾磨講師は「セットの時に背中を丸めない」「ブロックは手のひらでヒットする。親指を上に向けて、背中の方



を相手に伝える」とコツを丹念に指導した。またショルダー・タックリングの指導では「キャリアに近い方の足を一步踏み込み、胸を当てに行く」と、首のけがを防ぐタックルを伝えた。

また、引き続き行われたフレッシュマン・クリニックでは、2002年、2003年の甲子園ボウルとライスボウルを連覇した立命館大のエースQBだった高田鉄男氏が、ボックス組を指導した。現役時代にオプション攻撃と多彩なパスプレーを駆使した高田氏は、パスの基本を紹介。足の運びやスローイングのポイントなどを一人一人に丁寧に教えていた。(広報委員 塚田博)